

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 10 巻第 33 号

第 33 週 (8月16日～ 8月22日)

発行年月日:平成22年(2010年) 8月26日

発行 :滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

今週の感染症発生動向

- ◆「腸管出血性大腸菌感染症の多発警報」は解除
- ◆ヘルパンギーナの警報は解除
- ◆手足口病は、警報発令中

★一類～五類全数報告感染症の発生状況 (第 33 週)

- ・一類感染症----報告はありません
- ・二類感染症----**結核 9名**
- ・三類感染症----**腸管出血性大腸菌感染症 2名** (患者 2名)
(血清型・毒素型:O157・VT1VT2 2名)
- ・四類感染症----**レジオネラ症 1名** (病型:肺炎型、年齢:80歳代)
- ・五類感染症----**クロイツフェルト・ヤコブ病 1名、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1名**
麻疹 1名 (検査診断例、年齢:1歳、ワクチン接種歴:1回目有り)

「腸管出血性大腸菌感染症の多発警報」については、本年度第2回目の警報が8月3日(火)から8月15日(日)まで発令されていましたが、8月16日(月)に解除されました。

第33週(8/16～8/22)における腸管出血性大腸菌感染症の発生状況は、(3)今週の発生状況に示すとおりです。

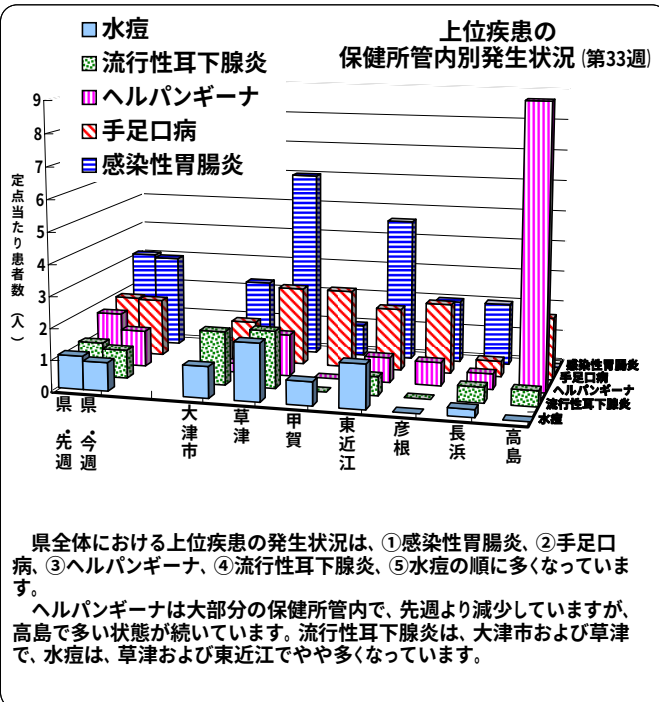
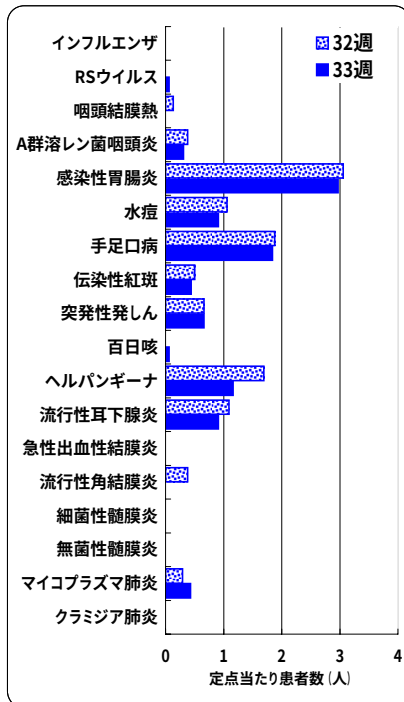
また、多発警報は解除されましたが、今後も引き続き感染予防に対する注意(①手洗いを十分に
する。②食肉の加熱時には、食品の中心温度を75℃1分以上加熱する。③食肉を生で食べないように
する。④患者からの二次感染に気をつける等)が必要です。

★定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況 (先週との比較、定点当たり患者数)

下記グラフに示す18疾患の患者報告数は、先週(339名)よりさらに減少し、今週は301名となっています。
今週増加した疾患は、百日咳、マイコプラズマ肺炎等です。減少した疾患は、A群溶レン菌咽頭炎、伝染性
紅斑(リンゴ病)、ヘルパンギーナ等です。(週別発生状況については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

「感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム」によると、手足口病では現在も継続して、
県内全域に警報が発令されています。ヘルパンギーナでは、高島保健所管内で警報発生基準値を超えて
いますが、警報の解除基準^(*)に該当したので、解除されました。

**解除基準:手足口病の終息基準値(定点当たり患者数 2.00)を超える全ての保健所管内
人口の合計が、県人口全体の30%未満になった時点で解除します。**



県全体における上位疾患の発生状況は、①感染性胃腸炎、②手足口病、③ヘルパンギーナ、④流行性耳下腺炎、⑤水痘の順に多くなっています。

ヘルパンギーナは大部分の保健所管内で、先週より減少していますが、高島で多い状態が続いています。流行性耳下腺炎は、大津市および草津で、水痘は、草津および東近江でや多くなっています。

1. 全数報告感染症（一類～五類）の累積報告数

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感 染 症 類 型	疾 患 名	平成22年 累積報告数		平成21年 累積報告数 ^(※1)		平成20年 累積報告数	
		滋賀 ^(33週)	全 国 ^(※2) (32 週 注)	滋 賀	全 国 ^(※2)	滋 賀	全 国 ^(※2)
一 類 感 染 症	報告なし	0	0	0	0	0	0
二 類 感 染 症	結核	152	15,419	256	26,932	282	28,419
三 類 感 染 症	コレラ	0	4	1	16	0	45
	細菌性赤痢	2	106	0	180	3	320
	腸管出血性大腸菌感染症	19	2,128	27	3,886	53	4,322
	パラチフス	1	14	0	27	0	27
四 類 感 染 症	E型肝炎	0	44	1	56	0	43
	A型肝炎	3	286	0	115	3	170
	オウム病	1	7	0	21	0	9
	コクシジオイデス症	0	0	0	2	1	2
	デング熱	0	101	0	93	2	104
	マラリア	0	42	0	56	1	56
五 類 感 染 症	レジオネラ症	5	429	8	712	10	893
	アメーバ赤痢	3	504	10	783	10	872
	ウイルス性肝炎	0	121	3	220	5	241
	急性脳炎	0	151	8	526	1	190
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	103	2	141	2	152
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	81	2	105	1	113
	後天性免疫不全症候群	1	903	9	1,449	11	1,568
	ジアルジア症	0	47	0	73	1	75
	梅毒	6	373	3	692	5	839
	破傷風	0	58	3	113	5	123
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	66	0	116	0	80
	風しん	5	64	2	148	2	309
新型インフルエンザ 等感染症	麻しん	3	343	7	739	39	11,015
	新型インフルエンザ (H1N1) ^(※3)	0	0	138	12,639	- ^(※4)	- ^(※4)

注：33週の全国累積報告数については、次週の滋賀県感染症情報（SIDR）に掲載します。

※1: 感染症発生動向調査年報暫定数（国立感染症研究所感染症情報センター、平成22年3月）。

※2: 全国の累積報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています（国立感染症研究所感染症情報センター提供資料参照）。

※3: 感染症法の一部改正（平成21年7月24日施行）により届出の対象となった報告数です（届出期間：平成21年7月24日～8月24日）

※4: 感染症法の一部改正以前のため、集計は行っていません。

2. 定点把握の対象となる五類感染症の週別および保健所管内別発生状況

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関（定点）といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一か所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです（患者報告数＝定点当たり患者数×定点数）。

(1) 疾病別・週別発生状況（平成22年第28～33週、7/12～8/22）

定点区分	定 点 数	疾 患 名	定点当たり患者数（ ↑ 前週より増加 → 前週と同じ ↓ 前週より減少）										
			28週 7/12～	29週 7/19～	30週 7/26～	31週 8/2～	32週 8/9～	33週 8/16～	週				
インフルエンザ	53	インフルエンザ	0	0	0.02	0.02	0	0	→	↑	→	↓	→
小児科	32	RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0.06	→	→	→	→	↑
		咽頭結膜熱（プール熱）	0.41	0.25	0.16	0	0.13	0	↓	↓	↓	↑	↓
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.59	0.09	0.50	0.44	0.38	0.31	↓	↑	↓	↓	↓
		感染性胃腸炎	3.47	2.41	3.31	2.91	3.06	2.97	↓	↑	↓	↑	↓
		水痘	1.34	1.50	1.47	0.69	1.06	0.91	↑	↓	↓	↑	↓
		手足口病	6.22	5.72	3.69	2.88	1.88	1.84	↓	↓	↓	↓	↓
		伝染性紅斑（リンゴ病）	0.66	0.66	0.38	0.50	0.50	0.44	→	↓	↑	→	↓
		突発性発しん	0.44	0.41	0.56	0.63	0.66	0.66	↓	↑	↑	↑	→
		百日咳	0	0	0	0	0	0.06	→	→	→	→	↑
		ヘルパンギーナ	6.66	5.41	3.94	2.88	1.69	1.16	↓	↓	↓	↓	↓
眼科	8	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	1.00	1.06	1.03	0.59	1.09	0.91	↑	↓	↓	↑	↓
		急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	→	→	→	→	→
基幹	7	流行性角結膜炎	0	0	0	0.13	0.38	0	→	→	↑	↑	↓
		細菌性髄膜炎	0	0.14	0	0	0	0	↑	↓	→	→	→
		無菌性髄膜炎	0.29	0.71	0	0	0	0	↑	↓	→	→	→
		マイコプラズマ肺炎	0	0.14	0.14	0.14	0.29	0.43	↑	→	→	↑	↑
基幹	7	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0	0	0	0	0	0	→	→	→	→	→

各疾患における6週間の発生状況

減少傾向・・・感染性胃腸炎、水痘、伝染性紅斑、手足口病、ヘルパンギーナ

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第33週、8/16～8/22)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況 (県全体)
	県	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルス感染症	0.06	0	0.17	0	0	0	0	0.50	
咽頭結膜熱(プール熱)	0	0	0	0	0	0	0	0	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.31	0	0.83	0.25	0.60	0	0.25	0	
感染性胃腸炎	2.97	2.29	6.00	1.00	4.60	2.00	2.00	0	
水痘	0.91	1.00	1.83	0.75	1.40	0	0.25	0	
手足口病	1.84	1.29	2.50	2.50	2.00	2.25	0.50	2.00	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.44	0	0.83	0	1.20	0.25	0.50	0	
突発性発しん	0.66	0.43	1.33	0.25	1.40	0	0.25	0.50	
百日咳	0.06	0.29	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	1.16	0.29	1.33	0	0.80	0.75	0.50	9.00	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.91	1.71	1.83	0	0.60	0	0.50	0.50	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0.43	3.00	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	

赤・太字

は警報発生基準値を超えています。

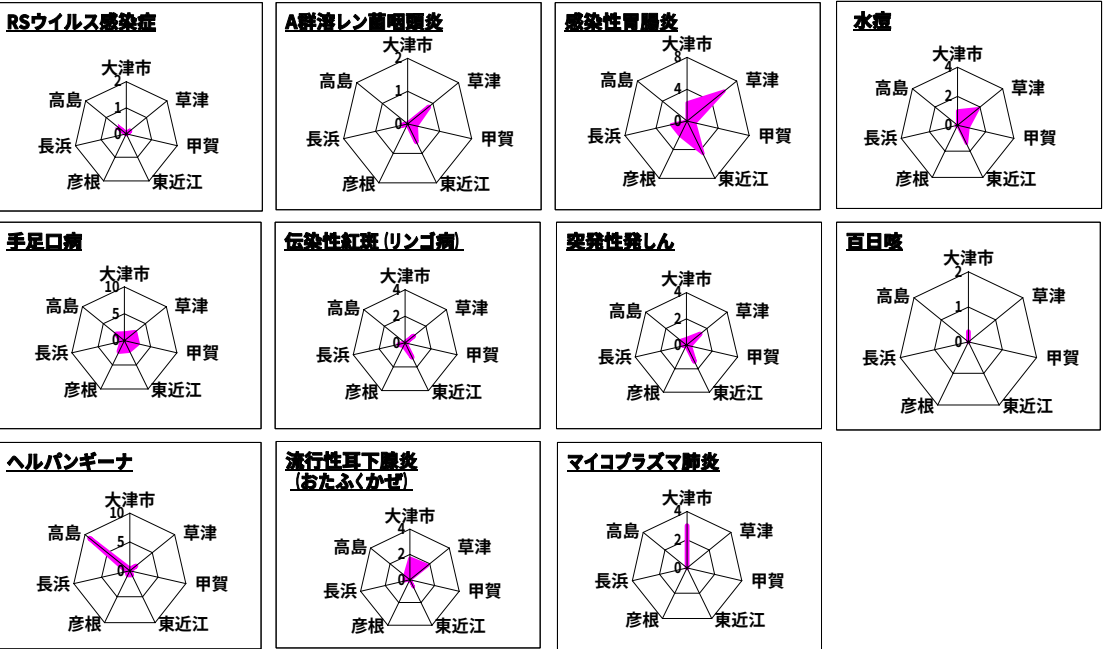
青緑・太字

は注意報発生基準値を超えています。

01234

定点当たり患者数

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



(3)今週の発生状況

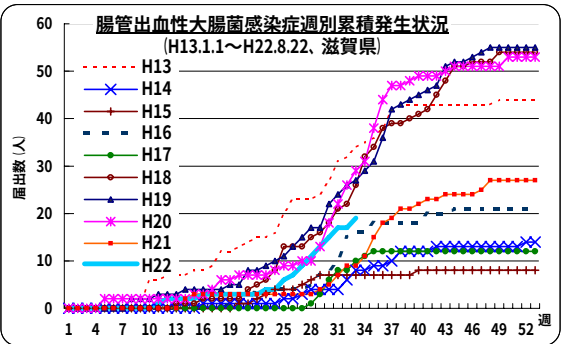
伝染性紅斑----- 草津保健所管内では、第23週(6/7～6/13)以降、連続して警報終息基準値(定点当たり患者数 1.00)を超えていましたが、今週の定点当たり患者数は、0.83となり警報終息基準値未満となっています。

百日咳----- 大津市保健所管内からの報告で、年齢は20歳以上となっています。

手足口病----- 県全体では微減となっています。甲賀保健所管内では先週よりほぼ半減していますが、大津市、草津および彦根保健所管内では微増となっています。

マイコプラズマ肺炎---- 大津市保健所管内からの報告が多くなっています。

腸管出血性大腸菌感染症の発生状況(平成13年～平成22年、滋賀県)



平成22年8月22日現在における届出数19名の内訳は、男性 8名、女性 11名、診断の類型は患者 14名、無症状病原体保有者 5名です。

血清型・毒素型は

O157・VT1&VT2 12名(HUS1名を含む)

O157・VT2 3名、O157・VT1 1名、O91・VT1 1名

O111・VT1&VT2 2名

年齢は0～9歳 8名、10～19歳 1名、20～29歳 4名

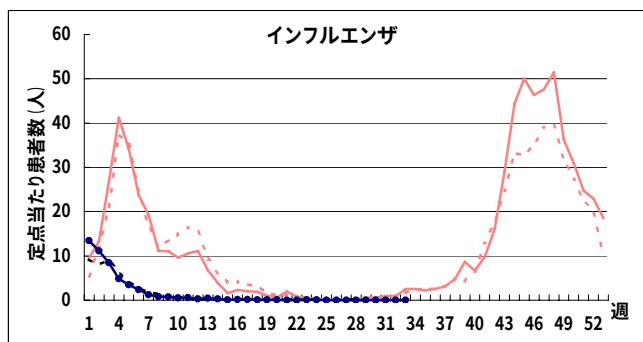
40～49歳 3名、50～59歳 1名、70歳以上 2名です。

届出保健所管内別は

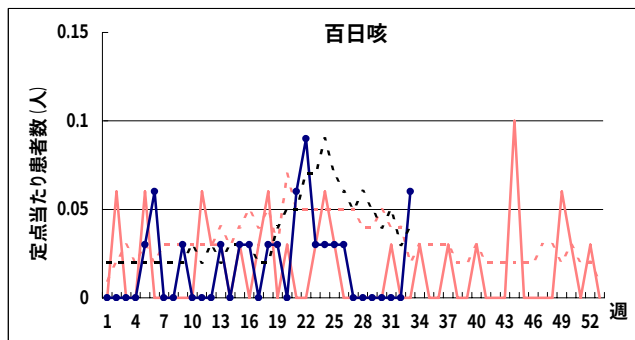
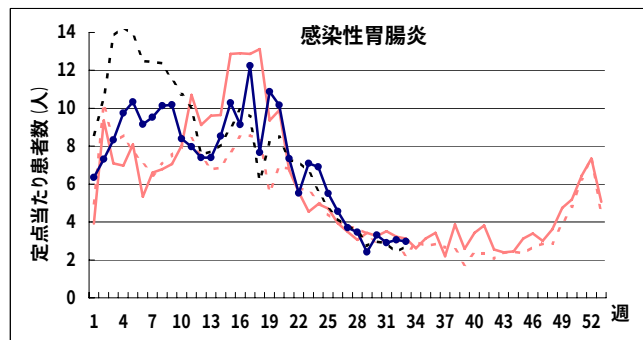
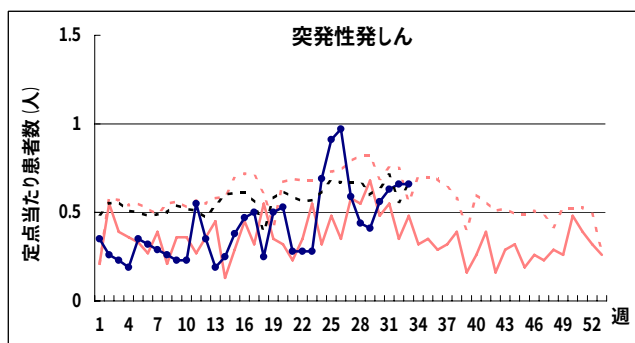
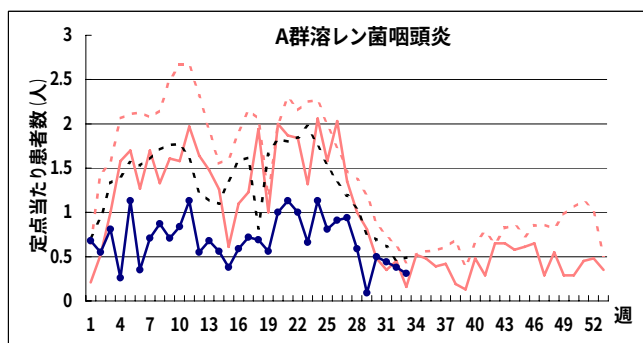
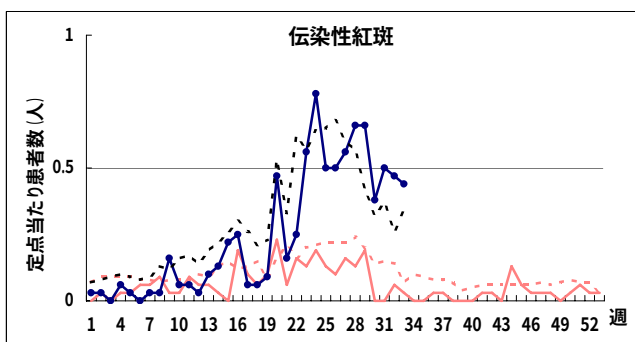
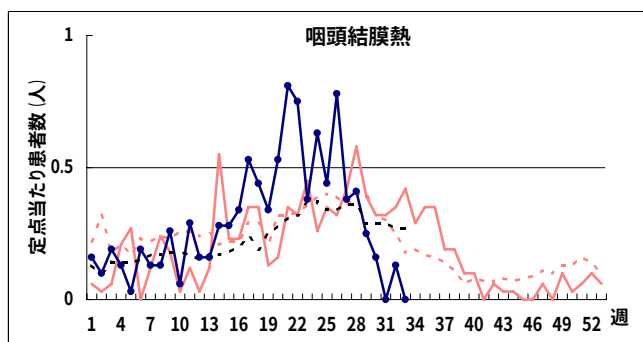
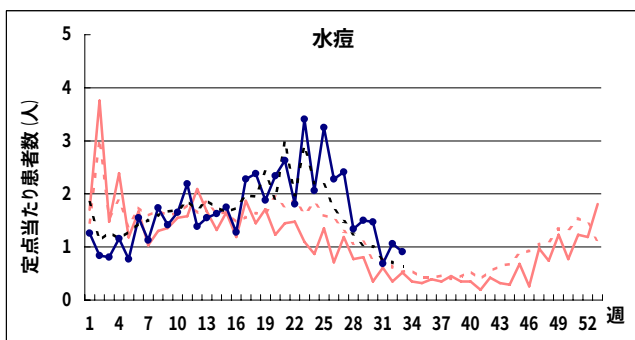
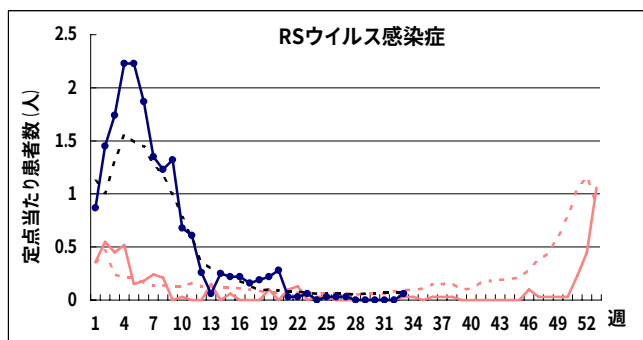
大津市 5名、草津 7名、甲賀 0名、東近江 4名、彦根 1名、長浜 1名、高島 1名です。

トップページに
戻る

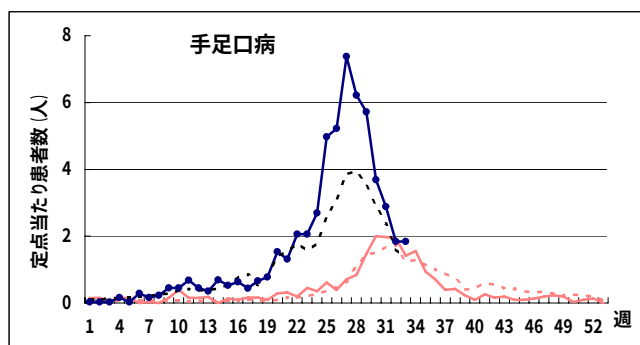
疾病別定点当たり患者数 (平成22年第 1～33 週、H22.1.4～H22.8.22)



H21 { 滋賀 ————
全国
H22 { 滋賀 —●—
全国
全国



疾病別定点当たり患者数 (平成22年第 1～33 週、H22.1.4～H22.8.22)



H21 { 滋賀 (solid red line)
全国 (dotted red line)

H22 { 滋賀 (solid blue line with dots)
全国 (dotted blue line)

